

乳幼児健康診査（乳幼児健診）・子育て支援に関わる
作業療法士の専門性と役割に関する報告

平成23年3月

保健福祉部
(発達領域チーム)

乳幼児健康診査（乳幼児健診）・子育て支援に関わる 作業療法士の専門性と役割に関する報告

1. はじめに

保健福祉部では、「作業療法 5 カ年戦略」における保健・健康増進領域の行動目標である「母子保健事業への参画事例を集積し、モデルを提示する」の達成に向けて、平成 21 年度から 22 年度にかけてアンケート調査・追加調査・訪問調査により乳幼児健診・子育て支援などの場における作業療法士の活動の把握に努めた。

3 回にわたる調査により得た結果を以下に報告する。

2. 各調査の概要

- 1) 「作業療法士の乳幼児期への関わりの現状に関する調査」（アンケート調査）
 - ① 調査目的：乳幼児期への作業療法士の関与の実態の把握および分析。
 - ② 対象：肢体不自由児通園施設・知的障害児通園施設に所属するもの及び、市町村で子どもを対象としている部署に所属するもの 285 名。1 施設 1 名を抽出（常勤・協会員番号数の小さいもの）し、個人あてに送付した。
 - ③ 時期：H21 年 12 月 4 日発送、21 日締め切り。
 - ④ 内容：勤務施設の概要、乳幼児健診・子育て支援への関与の業務形態に関すること、作業療法士が関わることの意味合い、自由筆記。
 - ⑤ 回答：124 名（43.5%）の回答があった。
 - ⑥ 結果：資料 1 参照

- 2) 「乳幼児期の早期発見・支援と作業療法士の関わりに関する実態調査、追調査」
 - ① 調査目的：乳幼児健診・子育て支援に関与している施設における作業療法士の専門性と役割を抽出し、モデル案の基礎とする。
 - ② 対象：アンケート調査において乳幼児健診・子育て支援に関与していると回答し、追加調査に適していると思われた施設 12 施設。
 - ③ 時期：H22 年 6 月 5 日発送、21 日締め切り。
 - ④ 内容：乳幼児健診・健診後フォロー・子育て支援に関するメニューの全体像、作業療法士の関わりと課題など。
 - ⑤ 回答：9 施設（9 名）からの回答があった。
 - ⑥ 結果：「乳幼児健康診査（乳幼児健診）・子育て支援に関わる作業療法士の専門性と役割」図としてまとめた。（資料 2 参照・詳細は後述）また、市町村規模による関わりの傾向も得ることが出来た。

- 3) 「乳幼児健診及び支援に関わる作業療法士の実態調査」（訪問調査）
 - ① 調査目的：乳幼児健診に作業療法士が関与している地域において、そのシステムと役割についての実態を調査し、具体的なモデルを提示する。

- ② 対象：追調査の中で得られた情報をもとに、作業療法士の関わりの特徴を示していた長崎県佐世保市・松浦市を対象とした。
- ③ 時期：H22年10月18日～20日
- ④ 内容：具体的システムと役割の聞き取りおよび見学
- ⑤ 結果：2つの市町村規模も作業療法士の関わり方も違うが運用に成功していると思われる事例を得ることが出来た。（詳細は後述）

3. 「作業療法士の乳幼児期への関わりに関する調査」の結果(資料1)

回答のあった作業療法士の勤務施設は、公設公営 66%、公設民営 18%、民設民営 9% その他 6%であった。乳幼児健診（1歳6ヶ月健診・3歳児健診）に関わっている施設は10%に過ぎないが、健診後フォローは30%であった。これらの業務には、所属の本務もしくは兼務としての関わりがほとんどで、80%程度であった。子育て支援に関する事業への関わりは、相談・援助に関すること 45%、講習会の講師など 30%、その他 22%であった。

乳幼児健診へ作業療法士が関わることに対する意識は、乳幼児健診の精度が増す62%、フォローがしやすくなる50%、全体的レベルアップになる46%と、プラスのイメージが多かった。子育て支援に関わることに対する意識は、アドバイスによる母の支援が出来る78%、遊び支援・子の発達支援が出来る78%、機関との連携・流れのある支援が出来る71%、その後の関わりがスムーズ45%と、プラスのイメージが多かった。

4. 「乳幼児期の早期発見・支援と作業療法士の関わりに関する実態調査、追調査」の結果

1) 乳幼児健診と作業療法士

従来の乳幼児健診では、脳性まひや精神発達遅滞の早期発見に作業療法士の役割があったが、近年の乳幼児健診では、発達障害児^{※1}（自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、AD/HDなど）の早期発見・日常生活への指導の役割が期待されているようである。（※1 以下、発達障害は、発達障害者支援法で定義されたものを示す。）

また発達障害者支援法でも発達障害の早期発見と早期支援への配慮を各機関に求めているが、専門性を生かし乳幼児健診に関わる作業療法士の数は少ない。（※平成21年度の調査では、作業療法士が乳幼児健診に関与する施設・機関は10箇所のみであった。）

2) 乳幼児期に関わる作業療法士に期待されている役割

作業療法士に期待されていることは、対象児の運動、感覚・知覚・認知の状態を把握して児の特徴をとらえ、児のおかれている環境の中で、それらが日常生活にどのような影響を及ぼし、どのような問題が生じているのかを評価・分析することであった。

また、それらの情報をもとに、保護者や関係職種へ発達を促す遊びや日常生活へのアドバイスをを行うことへの期待もあった。

さらに、作業療法の評価の知識と技術をもとに、乳幼児健診の一次健診の観察シート

の作成や保健師等に観察のポイントなどを伝えて乳幼児健診の精度を上げること、二次健診やフォローアップ教室における観察などから、必要に応じてアドバイスをを行い、保護者の理解を得ながら療育機関につなげていくことも求められている。

また、作業療法士による幼稚園・保育所への巡回（指導・相談）では、園生活での具体的な支援方法を保育者に提供することも可能である。

3) 地域で暮らすことを支援するための役割

子育て支援センター（児童福祉法に基づく事業）が主催する研修会では、講師として「障害のある子どもの理解と対応」等の講義を行っており、地域で幼児期を支えることや、幼稚園・保育所職員など関係者や保護者に対して発達障害への理解を促し、発達障害児への日々の対応方法等も伝えている。

また、男女雇用均等法の事業であるファミリーサポートシステムのファミリーサポーターにも同様の内容で講義を行うこともある。

障害児を地域で育てている現場でこれらのニーズに対応している現状からも、作業療法士の専門性を地域において積極的に活用すべきと考えられる。

4) 「乳幼児健康診査(乳幼児健診)・子育て支援に関わる作業療法士の専門性と役割」 図について（資料2）

回答のあった施設について、作業療法士が関わっている場面とそこでの役割について抽出をした。絶対数が少なく、施設により関わる場面が違っているが、資料2の図に示すように、乳幼児期から就学までの子どもに関わる、保健福祉領域のあらゆる場面において活用されていることがわかった。

資料2の「乳幼児健康診査（乳幼児健診）・子育て支援に関わる作業療法士の専門性と役割」は、追調査の結果を、作業療法士の教育過程で得られる専門性やエビデンスに基づき分りやすくモデル図として作成したものである。障害児の早期発見・早期療育に作業療法士が有意義で重要な役割を担っていることが今回の調査結果から知り得たが、これらの役割を担って働く作業療法士の数は非常に少なく、作業療法士の仕事としても広く知られているわけではない。本図が、乳幼児期に関わる作業療法士の専門性と役割に関する理解を深め、作業療法士を障害児のライフステージに沿った支援者としてより活用される一助となることを期待したい。

5) 市町村規模による作業療法士の関わり方の違い

早期発見・早期療育において、各市町村が持っている機能や流れはほぼ共通しており、そのどの段階においても作業療法士が何らかの役割を果たしていることが分かった。一方で、市町村の事情によって関わりの時期や役割の違いもみられた。小規模の市町村では、1名の作業療法士が乳幼児健診から関わりを持ち、フォローアップや保育所・幼稚園・学校支援までほとんどの事業に関わっていた。しかし、大規模・中規模の都市においては、乳幼児健診から療育・学校支援に至るシステムの中で、各種専門家が機能的に

役割分担をしていることがわかった。これらの事例は、障害児の地域生活を支援するために、作業療法士がどのような働き方が出来るかを示唆するものである。

5. 「乳幼児健診及び支援に関わる作業療法士の実態調査」(訪問調査)の結果

H22年6月の追調査で得られた結果を踏まえ、小規模市と中規模市の作業療法士の活動状況の実態を知るために訪問調査を行った。

長崎県佐世保市と松浦市を訪問先とし、乳幼児健診から学校支援に至る作業療法士の関わりについて、地域の状況により作業療法士の関わり方の違いを見ることが出来たので、事例として報告をする。

1) 事例1

①佐世保市及び、佐世保市子ども発達センターの概要と作業療法士の関わり

佐世保市は、人口261,519人(H22年5月現在)、年間出生数2,231人(H20年度)の中規模都市である。佐世保市における障害児への支援システムは、佐世保市子ども発達センターを中心におこなわれている。子ども発達センターの職員構成では作業療法士の人数は他の職種を上回っている(表1参照)。また作業療法士の活動状況は、自閉症を中心とする発達障害の子どもが多く、障害児療育等支援事業として、訪問療育・施設支援に関わる頻度が週3日と非常に高い(表2参照)。生活の中こそ、作業療法が必要であることを、発達センター全体の認識として共有が出来ている背景があった。

表1 職員の配置状況(平成22年4月現在)

常勤職員		非常勤職員	
小児科医師	2名	整形外科医師	
小児精神科医師	1名	小児科医師	
保健師	1名	耳鼻咽喉科医師	
理学療法士	2名	歯科医師	
作業療法士	3名	臨床心理士	
言語聴覚士	2名	育児カウンセラー	
臨床心理士	1名	作業療法士、看護師	
保育士(療育)	2名	歯科衛生士	
保育士(子育て支援)	2名	家庭相談員	
事務員	1名	事務員	

表2 発達センター作業療法士の活動状況(H21年度)

障害児療育等支援事業(発達センター実施分) センター利用・OT実施の障がい別状況

	訪問療育(人)	外来療育(人)	施設支援(回)	すぎのこ園訪問(回)	障がい別状況		
					センター利用(人)	OT対象(人)	
小児科	70	394	107	0	自閉症	206	33
小児診療科	7	8	28	0	多動性障がい	118	11
理学療法	24	73	17	6	学習障がい	25	1
作業療法	104	307	107	11	精神遅滞	134	12
言語聴覚療法	60	106	58	1	精神運動発達遅滞	34	8
心理療法	6	103	19	0	運動障がい	111	14
保育士	12	327	13	1	重症心身障がい	25	5
保健師	0	2	1	0	心因性障がい	111	2
計	283	1320	350	19	言語障がい	96	12
					視覚障がい	5	0
					聴覚障がい	12	1
					その他	19	1
					計	896	100

佐世保市子ども発達センターの作業療法士が関わっている場所(事業)は図1のようである。乳幼児健診の一次健診には関わらないが、保健センターでの「発育・発達健診」において、作業療法評価と日常生活における指導等を行っている。また、子ども発達センターにおいて個別の作業療法と児童デイサービスにおける指導を行うほか、保育所・幼稚園支援、学校支援、「療育ネットワーク」「特別支援サークル」等の学習会の講師など、地域での生活支援に関わっている。佐世保市子ども発達センターでは、特別支援教育に関わる対象児の88.2%を把握することが出来ていた。

2) 事例2

①松浦市の概要と市役所勤務の作業療法士の関わり

松浦市は、人口 25,740 人（H22 年 10 月 1 日現在）、年間出生数 200 人程度の、長崎県北部の北松浦半島に位置する小規模市である。松浦市では、H20 年より市役所に非常勤職員として 1 名の作業療法士が勤務し、1 歳 6 ヶ月健診から学校支援までの各場面に関わっている（図 4 参照）。

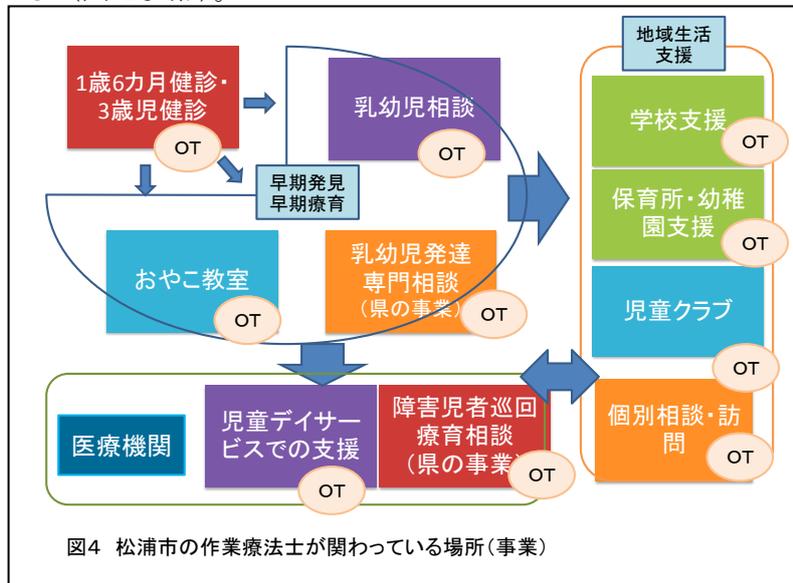


図4 松浦市の作業療法士が関わっている場所(事業)

②乳幼児健診への作業療法士の関わり

松浦市役所に作業療法士が配置されたH20年4月当初より乳幼児健診事業への関与が期待されていたが、実際に活動を開始したのはH21年8月からである。H20年度は、健診への関与を開始する前段階として松浦市内の保育所・幼稚園・学校訪問を行い、乳幼児健診前後の連携が取れるように基盤作りをした。毎回の乳幼児健診対象児は15~6名なので、1名の作業療法士が把握できる範囲内である。作業療法士は、乳幼児健診前に保育所・幼稚園での情報収集を行い、保育所・幼稚園での子どもの様子を園と保護者が共有できるように協力を依頼する。乳幼児健診当日は医師・保健師との連携により、二次検査としての評価や相談・指導を行い、保健師との連携による事後フォローにも関わっている。（図5参照）

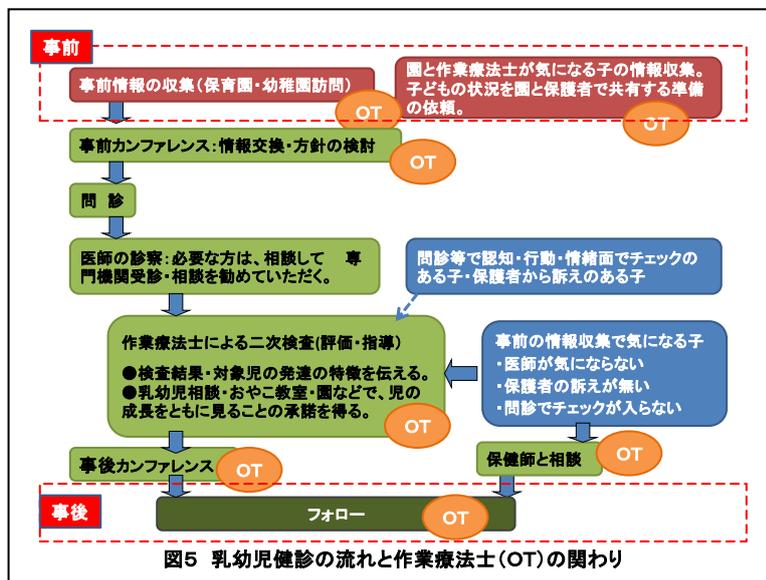


図5 乳幼児健診の流れと作業療法士(OT)の関わり

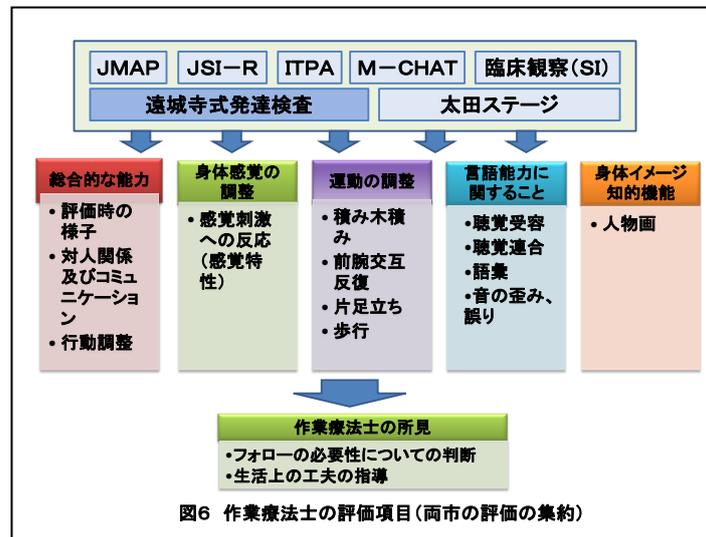
3) 佐世保市・松浦市の作業療法士の活動のまとめ

①地域性による活動の違い

両市の活動を比較すると、人口規模による活動形態の違いがあることがわかる。松浦市では、年間出生数が200人程度で、1人の作業療法士が把握できる範囲内であることから、障害児のライフステージに沿って各生活場面に関与することが可能である。一方佐世保市は年間出生数が2,000人であり、複数の作業療法士や多職種の役割分担により早期からの介入が実現できているといえる。地域の持つシステムや作業療法士の関わる場面の違いによって、作業療法士が果たしている役割もまた違いがある。松浦市では支援や機関をつなぐコーディネーター的な役割を担っているが、佐世保市では医師の主導する多職種チームの中で、作業療法士としての専門性を求められている。

②乳幼児健診における評価項目

両市ではそれぞれ独自の作業療法評価を行っているが試行段階である。評価項目は、運動機能、感覚・知覚・認知領域、言語を含めた全般的な知的能力、行動、コミュニケーションに関することである。(図6参照)



③活動の背景

両市の作業療法士が地域で生かされて活動が展開できる社会的背景として、以下の事があると思われる。

- ・長崎は、古くから作業療法士が発達障害に深く関わってきた歴史があり、作業療法に対して受け入れが良い。
- ・地域住民の要望により支援体制ができ、そこに作業療法士が配置された。
- ・作業療法を理解してくれる医師・関係職員がいる。
- ・保健師はもとより、教育関係者とも会議や勉強会で知り合える機会があるので、お互いの顔が見えることが、連携をよりスムーズにしている。
- ・保育園・幼稚園・学校などに高い頻度で出向くことが出来、作業療法士の特性を生かす活動の理解がすすむ。

④ 佐世保市・松浦市の作業療法士の活動から得られたこと

全国的な調査では、乳幼児健診・子育て支援に関わる作業療法士はまだ少ない。しかし両市の活動状況からは、「評価や具体的な育児・生活への支援」で、果たせる役割は大きいと思われる。両市には市町村規模や、関連スタッフの状況に違いがあり、佐世保市では乳幼児に関わるシステムの一部を専門家として担っており、松浦市では子どもの流れに沿ってそのすべてに関っていた。しかし両市ともに、作業療法士の関わり方が適切に機能していたことから、地域の事情に合わせた展開があつて良いことがいえる。佐世保市・松浦市の支援システムが、保護者や地域の人を含めた多くの人や職種に支えられており、**作業療法士が、関係者との人間的な交流や協調を大切に活動を展開している**ことを感じた。これは、作業療法士が地域に出て活動をするときにもっとも必要とされることであると思われた。

6. まとめ

乳幼児健診に関与している作業療法士は少ないが、発達支援センターや保健センターなどの行政機関や同様の役割を担った機関には雇用されている地域もある。しかし作業療法士としての専門性が乳幼児健診等において十分に認識、活用されているとは限らない。

一方で子育て支援に関わる作業療法士は、乳幼児健診に比べ多く、育児支援や子どもの発達支援に専門性を発揮しやすい状況にある。

作業療法士は子どもの状態をより明確に、客観的に評価し、日常生活の中で利用できる適切な支援プランを作りだすことができる。また地域で生活する障害児の家族、支援者、地域住民、関係機関への望ましい障害児支援のあり方について提案するとともに、地域への普及啓発もできる。

つまり乳幼児期に関わる作業療法士は不十分な配置状況ではあるものの、その配置次第で乳幼児健診から学校教育まで、さまざまな場面で支援に関する対応が可能である。そして障害児への直接的な支援から関係者への間接的な支援、地域支援へと本領域での作業療法の守備範囲が広いことを関係機関には理解していただく必要もある。

さらには市町村規模に応じた作業療法士の積極的な採用や活用の要望を伝えていくことも重要であると考えられる。

作業療法士の乳幼児期への関わりの現状に関する調査

保健福祉部

I. 調査実施状況

1. 調査目的：『作業療法5ヵ年戦略』における保健・健康増進領域の行動目標である『母子保健事業への参画事例の集積を行い、モデルを提示する』の達成に向けて、乳幼児期への作業療法士の関与実態の確認を目的とする。
2. 対象：肢体不自由児通園・知的障害児通園施設に所属するもの、および市町村で子どもを対象とした業務を行う部署に所属している者 285 名。常勤、協会番号桁数が少ない方を 1 施設から 1 名抽出し、個人あてに送付した。
3. 時期：2009 年 12 月 4 日発送、21 日締め切りとして実施。
4. 結果：回答は 124 名（43.5%）であった。詳しい結果は、アンケートの質問項目に沿って以下に示す。

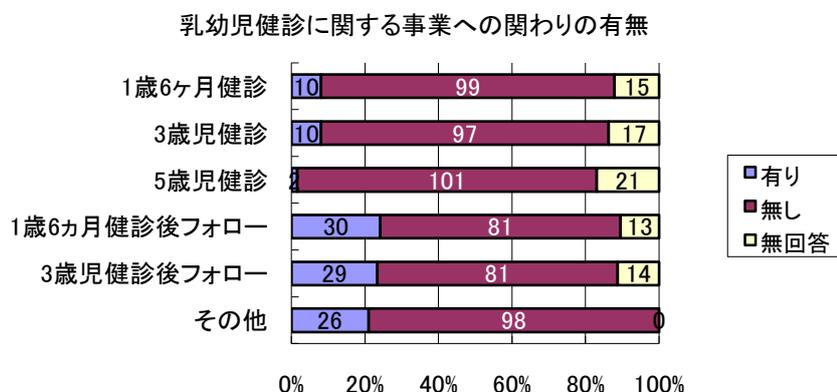
II. 結果

1. 勤務している施設について

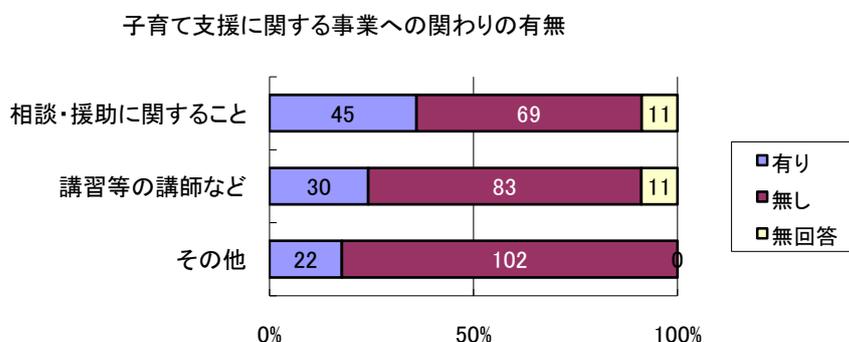
- ①公設公営：81（66%） ②公設民営：22（18%） ③民設民営：11（9%） ④その他：8（6%）
 （※障害者自立支援法の「児童デイサービス事業」を行っている：31）

2. 以下の事業に関与していますか。

1) 乳幼児健診に関する事業



2) 子育て支援に関する事業



3) その他、早期支援

①通園（肢体不自由児施設、知的障害児施設、児童デイサービス）

有：85、無：31（無回答：8）

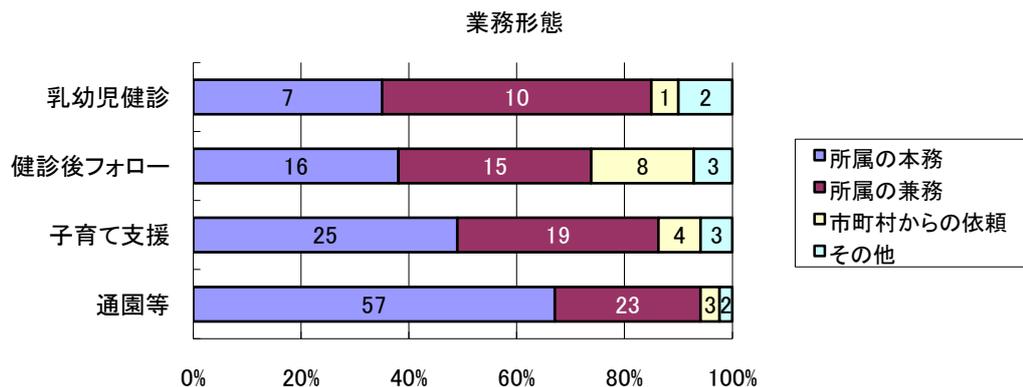
②その他（ 26 ）

3. 乳幼児健診、子育て支援事業等に関わっている状況について

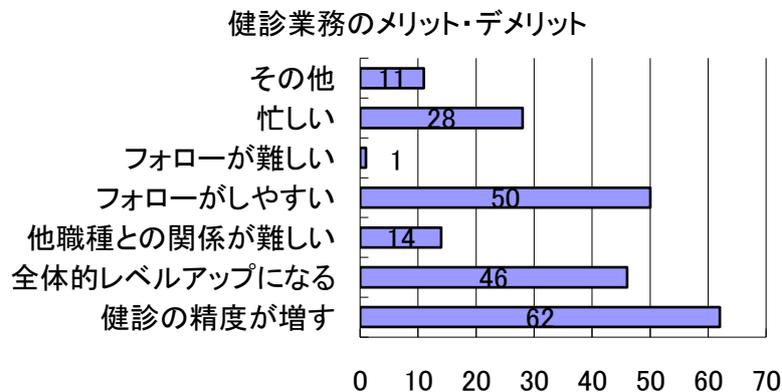
1) 関与をしたのは何年からですか。担当者的変更にかかわらず、事業に関わり始めたときをお答えください。

	乳幼児健診	健診後フォロー	子育て支援に関する事業	通園等
1960年代				2
1970年代			1	13
1980年代	3	3	1	12
1990年代	6	13	7	21
2000年代	9	18	37	25
合計	18	34	46	73

2) 業務は、どの形態で行っていますか。



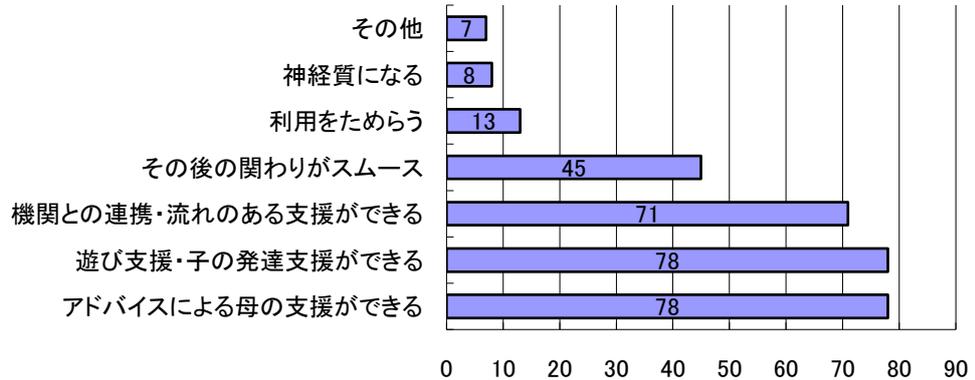
4. 健診事業にかかわることのメリット・デメリットはどのようなものでしょうか。以下の中から当てはまると思うものすべてに○をつけてください。



5. 子育て支援事業にかかわることのメリット・デメリットはどのようなものでしょうか。以下の中

から当てはまると思うものすべてに○をつけてください。

子育て支援事業メリット・デメリット



Ⅲ. まとめ

本調査に対する回答率は高く、発達障害への意識や関心の高い方が回答したものと考えられる。したがって結果として得られた実数と、現在の実態に大きな開きはないと考えられる。よって乳幼児健診に関与している作業療法士は、非常に少ないと思われる。

また関与していると答えた機関は、発達支援センターや保健センターなど、行政機関やそれに近い役割を担った機関であることが分かった。しかしルーティン業務（事務業務）の一人として関与している場合も予想され、作業療法士としての専門性が認識されているとは限らないことも分かった。

一方で子育て支援に関わる作業療法士は、乳幼児健診と比較すると多く、育児支援や子どもの発達支援において専門性を発揮しやすい状況は伺われる。また乳幼児健診や子育て支援に作業療法士が関わることに、メリットや積極的な支援の必要性を感じている作業療法士も多く、作業療法士は今後の活動展開の場面として本領域への関与の重要性を十分に認知していることも伺われる。

自由記述には多くの意見が寄せられており、来年度にはそれらも参考に健診事業における作業療法士の役割として求められていることや、現場の抱える問題等を実活動の中から聞き取ることとしたい。

乳幼児期健康診査（乳幼児健診）・子育て支援に関わる作業療法士の専門性と役割

すべての関わりに共通する作業療法の手法

運動ー感覚・知覚・認知ー環境の個々の評価および相互関係の分析



<一次健診>
◆スクリーニング項目の内容検討・作成

<二次健診>
◆評価及び日常生活へのアドバイス

<親子教室など>
◆遊び・遊具の環境設定、課題設定の工夫

<健診後フォロー>

<発達相談>
◆保護者に遊び・日常生活のアドバイス

<発達障害者支援センター>
◆生活や遊びの工夫の提案・実践
◆関係者（機関）への専門知識の提供

<総合療育センター・一般病院など>
◆作業療法の実施

<障害児通園施設・児童デイサービスなど>
◆園生活での支援方法の提案・実践
◆個別の作業療法の実施

<幼稚園・保育所>
◆園生活での支援方法の提案・実践

<学校>
◆特別支援教育における作業療法支援

<子育て支援>
◆研修会などの講師（障害のある子の対応と理解など）

<ファミリーサポート>
◆研修会などの講師（障害のある子の対応と理解など）

作業療法士が従事している機関・施設：保健センター、市町村役場、発達支援センター、総合療育センター、障害児通園施設、病院など